

## 実践報告

## 札幌市立東月寒中学校

### (1) 研究内容

研究課題：「人権教育を基盤とした学校づくり等の研究」

- 認知症や地域高齢者への支援方法や接し方を学ぶことによって、思いやりの心や人権感覚を養い、いじめをはじめとする様々な人権課題に対して正しく判断し、行動できる生徒を育成する。

### (2) 実践の内容

【実践①】国語科での認知症や敬老に関する題材資料の授業について

- ねらい  
高齢社会を見据え、地域や家庭の中で高齢者を敬い、その生き方を尊重する心を育てる。
- 学習内容  
ブレンストーミングとKJ法を用いて、高齢者の立場、若者の立場などを比較しながら考えを深める。(光村図書 3 年「蝉の声」浅田次郎)

【実践②】敬老に関する夏休み講演会、全校道徳について

- ねらい  
自分と立場の違う「高齢者」について学び、他者を受け入れる心や認め合う心を育てる。
- 学習内容  
クッキングキャスターの星澤幸子氏を講師として招き、夏休み期間中にボランティア生徒を対象に「高齢者の食」について講演会を行い、その後、星澤氏と共に施設を訪問し、実際の料理や食事の仕方を学んだ。また、11 月に全校生徒を対象に「若者の食と高齢者の食の違い」を比較しながら食べ物と健康についての講演会を行った。

【実践③】高齢者施設との交流や施設訪問ボランティアについて

- ねらい  
普段の生活の中で関わりの少ない高齢者とのいろいろな交流活動を通して、マナーや礼儀を学ぶとともに、敬老の意識を高め、思いやりの心を育成する。
- 学習内容



全校生徒に対してボランティア生徒を募り、施設との交流や施設訪問を行った。また、施設訪問に向けて「加齢と共に身体に現れる変化や認知症」について、施設の方を講師として本校に招き講座を開いた。そして、その中で学んだことを生かし、食事の補助や傾聴ボランティアなどを行った。



#### ◎交流内容

- (1) 全校集会への参加…施設の紹介、高齢者の方からの雑巾の寄贈
- (2) 花壇づくり…施設の方と交流のシンボルとしての花壇づくり、鉢植えを施設に寄贈
- (3) 施設の夏祭りへの参加…ボランティアによる施設訪問、交流活動

- (4) 吹奏楽部を中心とした有志による演奏…施設で有志による演奏会の開催
- (5) クリスマス会の企画…施設での歌の演奏会とクリスマスカードのプレゼント  
※演奏会に向けて歌の練習を4回実施、クリスマスカードづくりを行う。

#### 【実践④】 独居老人宅への年賀状ボランティアについて

##### ○ ねらい

普段会話する機会の少ない高齢者に年賀状を送り、年賀状のやり取りを通して、高齢者を見守る意識を養うとともに思いやりと敬老の意識を高める。

##### ○ 学習内容

生徒会活動の一環として、ボランティア生徒を募り、地域との交流の一環として、年賀状の作成および発送を行った。

#### 【実践⑤】 認知症サポーター養成講座(1年)、地域見守り隊養成講座(2年)について

##### ○ ねらい

認知症について学習し、温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心を

もつ。また、地域の高齢者を気に掛け、思いやり、感謝、敬老の精神を養う。

##### ○ 学習内容

認知症サポーター養成講座は札幌市豊平区第2地域包括支援センター河野氏、地域見守り隊養成講座は札幌市豊平区社会福祉協議会望月氏により、それぞれ学年集会で講演会を行った。

### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

- ・ 思いやりの心や人権感覚を養い、人とつながる力を育成することができた。
- ・ 自分で行うことができるボランティア活動や、地域に貢献する姿勢を身に付けることができた。
- ・ 道徳の授業の実践では、生きていくために欠かすことができない「食」をテーマに、若者の食と高齢者の食の違いについて比較して、大切な食事とは何か学ぶことができた。
- ・ 今年度は外部から複数の講師をお招きして、様々な角度から敬老の精神を養うことができた。また、中学生とは違う立場の方に対して、自分ができることを考えることができた。



#### ② 課題

- ・ 豊かな心を育てていくためには、1回の学習活動で効果が期待できるものではない。教育課程に位置付け、継続して学校全体で推進していくことが重要である。
- ・ 小中高等学校において連続した学びとなるよう、系統性のある取組が必要である。

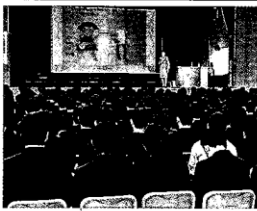
- ・講演会やボランティア活動などの時だけではなく、日常の中で生徒たちの豊かな心が育つように、一層工夫していくことが必要である。
- ・生徒アンケートの「ボランティア活動など新たなことにも参加したことがある。」という質問で肯定的な回答の割合 65%（「A：そう思う 40%、B：だいたいそう思う 25%」）をAの解答で 100%を目指す。
- ・自分と立場の違う人々のことを他人事と考えている生徒はまだまだ多い。豊かな心を育てていくためにも、継続して行なっていく必要がある。
- ・生徒に関わる周囲の大人が、人権意識をしっかりともって生徒に接していくことが大切である。



【ボランティア活動の様子】

## 北 海 道 通 信

平成 29 年 1 2 月 1 3 日 【水曜日】



530人が健康に生きるための食について考えを深めた

### 札幌市東月寒中が人権教育講演 健康と食の関係を学ぶ 料理研究家の星澤氏来校

札幌市立東月寒中学校 切を学んだ。  
(山本米一校長)は十一月三十日、同校で人権教育講演会を開いた。生徒や保護者合わせて約五百二十人が参加。講演を通じて食の大

札幌市立東月寒中学校では、今年一月三十日、同校で人権教育講演会を開いた。生徒や保護者合わせて約五百二十人が参加。講演を通じて食の大

平成 29 年 9 月 1 2 日 【火曜日】

ボランティア活動を行っ

今回、事業の一環として

### 札幌市東月寒中がボランティア活動 お年寄りとの交流楽しむ グループホームで食事、ゲーム

札幌市立東月寒中学校



### 【北海道通信に掲載された記事】

平成 29 年 8 月 1 0 日 【木曜日】 北 海 道 通 信

### 高齢者への思いやり育む 札幌市東月寒中の人権教育講演会



札幌市立東月寒中学校 (山本米一校長)は七日、同校で人権教育講演会を開いた。参加者を呼び付けた。同校で人権教育講演会を開いた。参加者を呼び付けた。同校で人権教育講演会を開いた。参加者を呼び付けた。

「たかが「早くこくなる人は...」と話し、暴飲・暴食の危険性を提示。動物性タンパク質を摂取せず、豆腐や野菜を中心とした精進料理を食べるお寺の住職の平均寿命が八十八歳とついでに、健康に生きるための「食べ方」を伝えたい」と呼びかけた。

37人が高齢者との交流を深めた  
同校生徒十七人が参加し、高齢者と一緒に食事をしたほか、輪投げやヨリヨリ約りの当分の取り組む交流を楽しんだ。参加した生徒は「最初は何を話していいかわからなかったけれど、慣れると話せるようになった」と話していた。黒田英教諭は「今回の活動を通じて、人どうしが大切な学びを深め、話し合っていた。

